



I'mPOSSIBLE

LEARN. ENGAGE. INCLUDE.

2-5

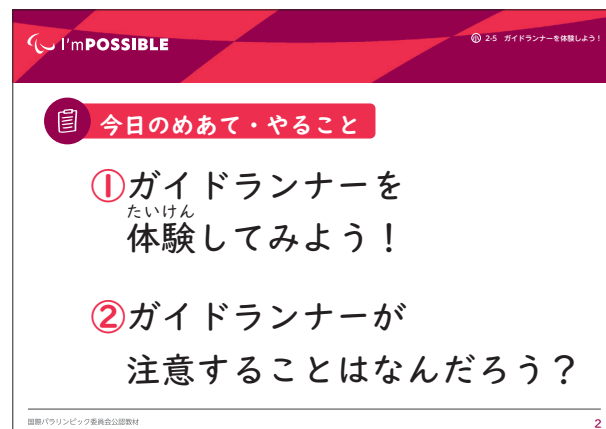
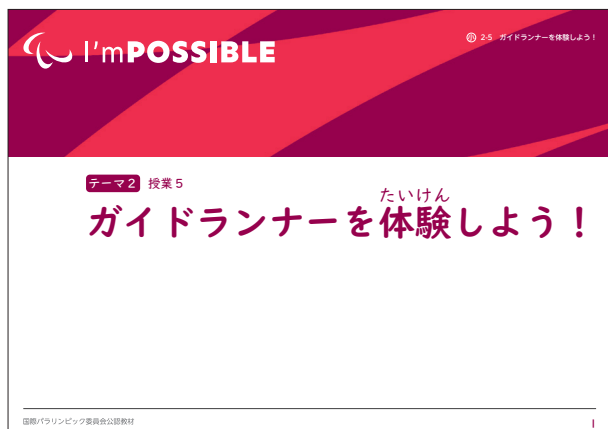
[ガイドランナーを体験しよう！]

教師用 授業ガイド

(小学生版)

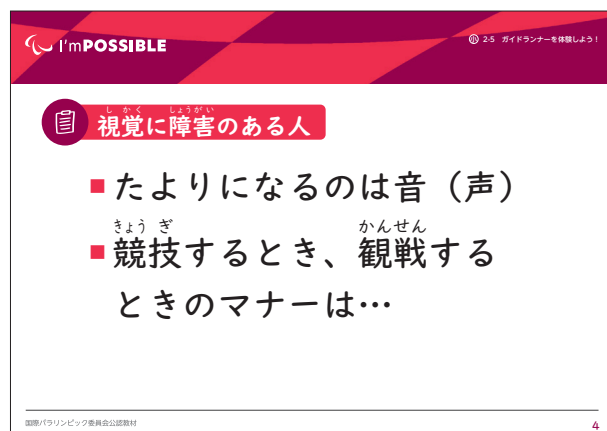
- 授業の展開にそって、【指導・声かけ例】【+アルファ情報】を掲載しています。
- 【+アルファ情報】は、すべて伝えなければならない情報ではありません。興味・関心を引き出すために、クラスのそれまでの学習経験なども踏まえてご活用ください。
- 一方的に教師が話すのではなく、児童の既習事項などと絡め、児童に考えさせるような展開にしましょう。

(教材の内容は、2022年4月1日現在の情報をもとにしています。)



【指導・声かけ例】

- ・ガイドランナーという言葉聞いたことがあるか、どんなことをする人かを想像させるなどして、ガイドランナーについて確認することから始めてもよい。
- ・陸上競技の走競技のT11は全盲のクラスで、ガイドランナーの伴走が義務付けられている。ガイドランナーの有無が選べるクラス、ガイドランナーなしのクラスもある。
- ・目の障害には、真っ暗、光だけ感じる、著しく視力が低い、視野が狭い（1センチくらいの穴から覗いた程度しか見えない）などがある。
→「ガイド＝案内する人 ランナー＝走る人 つまり案内しながら走る人だね。」
→「どういう人を案内するのかな？ 目の不自由な人」など



【指導・声かけ例】

- ・ここでの説明は、写真から ビブス（ゼッケン）に着目させて、ガイドランナーが誰かを確認させる程度の押さえ方に留める。

【指導・声かけ例】

- ・ゴールボールやアイマスク体験などの体験をしていたら、それを思い起こさせる。
- ・ブラインドのスポーツを挙げさせるなどして、興味を持たせてもよい。（ブラインドフットボール、ゴールボール、柔道、アルペンスキー、クロスカントリースキーなど）
- ・教師の一方的な説明にならないように、できるだけ気づかせたり想像させたりする。
- ・静かにして安全に注意すること、床にめがねや衣類を置いたままにしないように、気を付けるよう伝える。

I'mPOSSIBLE 2-5 ガイドランナーを体験しよう！

やってみよう！

■ 言葉だけで、動作を伝えることができるかな？

考えてみよう！

■ どのように伝えるとわかりやすいかな？

国際パラリンピック委員会公認教材 5

【指導・声かけ例】

- ・「言葉だけで、動作を伝えることができるかな？」を行った後に、感想を聞き、ガイドランナーがすべきことを引き出す。

I'mPOSSIBLE 2-5 ガイドランナーを体験しよう！

ガイドランナー

・ 具体的に指示する。

・ あいまいな声かけはしない

○ 「10メートル先 45度右カーブ！」

○ 「左 90度！」

× 「あっち！ おこうの方！」

・ タイミングに注意する。

○ 「ここまでで半分」

○ 「もうすぐ急な上り坂…はい、ここから！」

× 「あっ！ 右」「今、曲がって！」

国際パラリンピック委員会公認教材 6

【指導・声かけ例】

- ・スライド6・7は、はじめから示すのではなく、実際に動きをした子に感想を聞いたり、見ていた子に様子を聞いたりした後に示す。
⇒ 「まずは目をかくして走った人、どんな気持ちだった？」
⇒ 「ガイドランナーはどうだった？」
⇒ 「見ていて気づいたことはあったかな？」
- ・スライド3の写真に戻り、ガイドランナーの役割を簡単に説明する。
- ・息を合わせていること、テザー（ロープ）でつながっていることに気づかせたい。
- ・ガイドランナーは、アスリートが最高のパフォーマンス（記録や順位）をすることができるようにサポートする人。視覚障害のランナーに合わせて走る。

I'mPOSSIBLE 2-5 ガイドランナーを体験しよう！

ガイドランナー【声かけの例】

・ ゴーゴー

・ 5、4、3、2、1ストップ

・ あと〇歩くらい

・ 90度右に向く 左ななめ 45度

・ この先に△△があるよ！

・ その調子 それでいいよ！

クロックポジションで伝える

国際パラリンピック委員会公認教材 7

【指導・声かけ例】

- ・声かけのポイントとして、「詳細に伝えるためのもの」「不安解消のためのもの」があることに触れたい。
- ・クロックポジションや角度は難しいので、
⇒ 「自分の行動があっているか心配になるので、『その調子』『それでいいよ』などと言ってあげよう。」
⇒ 「先生は、まっすぐ歩くとき、まっすぐまっすぐと言われると安心したよ。」

＋アルファ情報

- ・ガイドランナーはテザー（ロープ）を引っ張ったり、選手を押ししたりしてはいけない。選手との距離が遠いと、安全にガイドをすることが難しくなるため、ロープの長さはトラック競技では30cm以内、道路競技では50cm以内となっている。
- ・マラソンのときなどは、地面にでこぼこがないかなども見ている。遠くで車の音などがすると不安になるので、「車が来ているが大丈夫です」などの情報も伝えている。

〈選手とガイドランナーを結ぶテザー（ロープ）について〉
国際大会など公式な競技会では、規定に沿った伸縮性のない両端に輪がついた形状のものを使用する。

I'mPOSSIBLE 2-5 ガイドランナーを体験しよう！

体験

- ①アイマスクをした人をガイドする。
 - ・ロープを使う。
 - ・コーンをよける。
- ②アイマスクをした人をガイドして、ロープを使って走る。

国際パラリンピック委員会公認教材 8

【指導・声かけ例】

- ・このスライドは使用しなくてもよい。
- ・映像を見せるタイミングは、歩く体験をした後、走る体験をする前が望ましい。
- ・選手とガイドランナーの動きがうまく合っている（息を合わせている）様子を見ることで、ガイドランナーが声かけの他にもう1つ大切にしている「(相手に)合わせる」を意識できるとよい。

I'mPOSSIBLE 2-5 ガイドランナーを体験しよう！

まとめ

- 感想を書こう
 - ・ガイドをして
 - ・ガイドをされて

国際パラリンピック委員会公認教材 9

【指導・声かけ例】

- ・時間がなくワークシートに記入させるのが難しい場合は、その場で2～3人に発表させるとよい。
- ・この体験を通して、視覚障害者にとってのガイドランナーや音声による情報の持つ意味についても引き出せるとよい。
- ・最後に、ガイドランナーが大切にしていることは、「声かけ」や「合わせる」こと、お互いを信じ合い、相当量の練習をして、パラリンピックの舞台に臨んでいることに触れ、パラリンピックを応援する気持ちを膨らませる。
- ・ガイドランナーがいないと走れない人は、走りに行きたい時に走れないもどかしさがあるという。ガイドランナーとして、支える役目をする人が増えることが期待されているということを伝えてもよい。